

	一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科 同窓会報	発行所 一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会 名古屋市千種区不老町 http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/
	<h1>セコイア通信</h1>	編集人 岩永青史・木羽隆敏 発行人 小川雄二 印刷所 株式会社 クイックス

名古屋大学から発信する新しい農学—セコイアと共に—

名古屋大学大学院生命農学研究科長・農学部長 土 川 覚



名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会（セコイア会）会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃から大学院生命農学研究科および農学部の教育研究活動にご理解とご支援を賜り、心からお礼申し上げます。また、この春に卒業・修了を迎えられた皆様に、心よりお祝い申し上げます。今後の更なるご活躍・ご発展を祈念いたします。農学部（1951年創立）および大学院（1953年創立）は、これまでに10,000名以上の学士、修士7,000名、博士学位取得者1,600名を社会に送り出してきました。国内および国外の産業界、行政ならびにアカデミアで活躍できる次世代リーダーの育成を目指し、農学に関わる基礎から応用までの幅広い知識と能力を涵養する教育を実践してきました。

新型コロナウイルス感染症による影響で社会が大きく変わりましたが、この春からは久しぶりに「日常」が戻ってくるのではないかと期待されます。本学におきましても、2023年度の授業実施方針については、感染防止対策を講じたうえで通常どおり授業を実施することになりました（教育効果が高いと判断された授業科目は、遠隔授業で実施します）。講義、実験実習、そして研究室での活動も、おおむねコロナ禍前の状況に戻る予定ですが、この3年間に獲得した情報通信技術（ICT）を活用した教育研究および管理運営は、さらに効率的に運用すべきであると考えております。

さて、2021年の農学部同窓会総会におきまして、同窓会の一般社団法人化に関する議案が議決され、2022年9月1日に一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会（セコイア会）が発足しました。2022年10月15日の名古屋大学ホームカミングデイに合わせて、同窓会と農学部・生命農学研究科との連携に関わる覚書を取り交わさせていただき、新たな門出の喜びを分かち合いました。

そして、皆様にもご案内を差し上げましたとおり、同日に農学部創立70周年記念事業として、「名古屋大学から発信する新しい農学—現在・過去・未来—セ

コイアと共に—」と題した講演会・パネルディスカッションを開催しました。ハイブリッド催事でしたが、本学名誉教授、学部・研究科同窓生、新旧教職員、および学生等約90名が農学部に集い、また、オンラインでは約40名が参加し、盛況のうちに無事終了いたしました。当日の概要ですが、第一部では、各界で活躍されている4名の卒業生の方々にご講演いただきました。林野庁森林整備部長の小坂善太郎様には「日本の森林 過去・今・未来～伐って使って植える循環によるグリーン成長を目指して～」、農林水産省大臣官房技術総括審議官 兼 農林水産技術会議事務局長の川合豊彦様には、「みどりの食料システム戦略」、豊橋飼料株式会社テクニカルセンター執行役員の中嶋真一様には「家畜用飼料の現状と将来について」、そして株式会社ブルボン代表取締役社長の吉田康様には、「食品企業の経営」と題したお話をいただきました。それぞれのお立場から「新しい農学」への期待と、歴史と伝統をいかに次世代へ繋げるかについてご講演いただき、続く第二部では、セコイア会小川雄二会長、石川靖文関東支部長、加藤壽郎関西支部長、そして東村博子名古屋大学副総長がコメントーターとして参加するパネルディスカッションを企画しました。農学部・生命農学研究科（旧農学研究科）が歩んできた70年間に想いを馳せるとともに、農学を基盤とする研究教育活動の今後の在り方、社会へ向けての情報発信・情報共有について活発な討議が展開され、たいへん充実した一日となりました。

さて、大学全体の状況ですが、今年度は文部科学省が定める第4期中期目標・中期計画期間の初年度であり、教育、研究、社会連携、国際連携、管理運営等々の項目に関して、東海国立大学機構としての具体的なかつ積極的なアクションが期待されております。また、マスコミ等でも報じられている10兆円規模の大学ファンドの運用益に基づく「国際卓越研究大学」への申請を視野に置いた活動も展開されています。農学部・生

命農学研究科としましても、このような動きに対して積極的に対応するとともに、東海地域における農学領域の産官学連携プラットフォームの構築やグローバルな人材育成と研究の共創発展を目指したいと考えております。

最後に毎々のお願いで恐縮ですが、生命農学研究科は名古屋大学特定基金として「教育研究基金」を設置

し、在学生の学業を支援する各種奨学金制度を設けておりますので、次世代の育成に向けてのご理解とご協力を是非ともお願い申し上げます。70年の伝統を礎とした農学に関わる新たな教育研究活動が着々と進んでいることをお伝えしつつ、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

同窓会は一般社団法人になりました

一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会 会長 小川 雄二

同窓生の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、今年度、農学部・生命農学研究科をご卒業、ご修了された皆様方には、心よりお祝い申し上げますとともに、晴れて同窓会員になられた皆様を熱烈に歓迎いたします。

2021年10月16日開催されました名古屋大学農学部同窓会（旧同窓会）の総会において、福島前会長の後任として会長に選任され、一般社団法人化後の新同窓会の会長も務めております小川雄二でございます。1978年に農芸化学科を卒業、1983年に食品工業化学専攻博士課程を満了し、現在は愛知県内の私立大学に勤務しております。

2021年10月16日の総会で、同窓会を一般社団法人化することを議決し、その決定に沿って、一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会（以下新同窓会）を設立いたしました。旧同窓会は、最後の評議員会を2022年7月16日に開催して、新同窓会の代議員選出についての承認を得ました。9月1日には旧同窓会から新同窓会への事業、財産、会員の移行を行い、一般社団法人としての同窓会がスタートしました。新同窓会は、意思決定を行う「理事会」と業務執行を行う「幹事会」に分け、農学部・生命農学研究科に所属しておられる教員諸氏に幹事の役割を担っていただくことにいたしました。

名古屋大学ホームカミングデーが開催された2022年10月15日（土）には、新同窓会として初めての総会をハイブリッド方式で開催致しました。「名古屋大学農

学部・生命農学研究科と一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会との連携協力に関する覚書」も締結しました。なお、旧同窓会の結了もこの日に決議いたしました。

また、同日午前には、「卒業・修了50・51・52周年記念祝賀会」を開催いたしました。加えて、総会後には「農学部創立70周年記念講演会・パネルディスカッション 名古屋大学から発信する新しい農学～現在・過去・未来～セコイアと共に～」を企画し、会場とオンラインで多くの皆様にご参加いただき、70周年を記念するに相応しいイベントを開催することができました。一連の行事にご参加いただきました同窓会会員の皆様、代議員の皆様、準備・運営に多大なご協力をいただきました農学部・生命農学研究科の関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。これらのイベントの詳細については、本セコイア通信の別頁及び同窓会ホームページをご覧ください。

これまで旧同窓会を支えていただきました歴代の役員の皆様、会員の皆様に心より感謝申し上げますとともに、引き続き、一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会に一層のご支援を賜ります様お願い申し上げます。同窓生の皆様におかれましては、これまで以上に同窓会活動に関心を持っていただきますとともに、同窓会諸行事、支部行事へのご参加を心よりお待ちいたしております。



園芸作物・人との出会い

植物生産科学専攻(園芸科学) 松本省吾



2009年4月に園芸科学研究室に赴任してから14年間、農学部・生命農学研究科にお世話になりました。1990年2月に名古屋大学理学研究科で学位を取得してから19年振りに名古屋大学に戻った時の恩師の町田泰則教授、お世話になった中村研三教授はじめ当時出入りされていた業者の方々々と再会した日のことを昨日のことのように思い出します。最後の3年間は新型コロナウイルス感染症によるオンラインでの様々な対応に四苦八苦いたしました。

研究対象として園芸植物に取り組み始めたのは、1990年6月から1年間過ごしたオーストラリアCSIROでのブドウDNAフィンガープリンティングによる品種同定・識別からでした。当初はブドウ形質転換が研究テーマでしたが、Nigel Scott博士の許可を得て、初めて、自らの意思でMark Thomas博士らとともに新たな研究を進めることができました。1992年に岩手大学に赴任してからリンゴ自家不和合性の研究を始めましたが、これは、現東北大学の鳥山欽哉教授との出会いから産まれました。この時以来、現岩手大学の小森貞夫教授はじめ現国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の副島淳一元育種部長、阿部和幸研究領域長、和田雅人主席研究員、岡田和馬調整監・技術支援センター長、長野県果樹試験場の小松宏光元場長、前島勤栽培部部長を始め多くの方々の支えの下で、今日まで研究を続けることができました。その後、1994年に岐阜大学に赴任した際には、福井博一教授との出会いが新たなバラ研究へと私を導いてくれました。バラの花器官分化に関わるABCモデルの構築に端を発し、サントリー株式会社との共同研究で青いバラの遺伝子拡散に関わるテーマにも取り組むことができました。名古屋大学では、現岐阜大学の山田邦夫教授よりイチゴのテーマを引き継ぎ、赤果肉リンゴや

バラの開花制御に加え、イチゴの花芽分化に関する研究にも取り組むことができました。

振り返りますと、リンゴから始まってバラ、イチゴと誰にも馴染みのあるバラ科の園芸作物を対象とした研究を進められたことに感謝するとともに、「ラボからフィールドへ」を心に刻んで研究に取り組みましたが、モデル植物にはないヘテロなゲノム構成や高次倍数体、何より栽培管理や育種に労力や長い年月のかかる点などもあり、一つ一つの結果を得るのに時間を要して成果をフィールドに十分還元できなかったことを申し訳なく思っております。幸い、赤果肉リンゴ、バラ棘形成機構、イチゴ開花制御の研究などは現名城大学の太田垣駿吾准教授が引き続き進めておられますので、大変心強く思っております。また、バラ科作物以外のコショウランのゲノム編集やウイルスフリーのワイン用甲州ブドウ作出に関する研究も、それぞれ、名古屋大学理学部の吉岡泰准教授、中部大学町田千代子教授、小島晶子准教授のグループが進めておられます。

最後になりましたが、何より研究室の教員、スタッフ、学生とともに研究できましたことに感謝いたします。また、学内では多くの事務職員、技術補佐員の方々にも大変お世話になりました。特に、技術部の大川敏生さんにはリンゴのデータベースで大変お世話になりました。名古屋大学には大学院研究生などの時代も加えますと20年間過ごさせていただき、多くの方々とお会いしたことに深く感謝いたします。今後の生命農学研究科の益々のご発展と皆様のご健勝を心より祈念いたします。本当にありがとうございます。

名大に47年！

応用生命科学専攻（生物活性分子） 小鹿 一



生命農学研究科には1995年1月に助教授として赴任して28年余りお世話になりました。この間、大過なく研究教育に邁進できたのも、研究科の運営に尽力された先生方、周囲の教職員や学生の皆さんの協力、家族の理解のお陰であり感謝の念でいっぱいです。さて、私は1976年4月に名大理学部に入學し修士課程修了後、そのまま助手に採用していただいたので、学生時代も含めると、なんと47年も名大にお世話になったことになります。学生の頃は修士学位を取得して民間企業へ就職することをイメージしていたので、人生というのとはわからないものです。

私はいわゆる「天然物化学」という学問領域に興味をもって研究を進めてきました。「天然物」とは、生命が細胞内にもつ化学成分（特に低分子化合物）を指し、ホルモンや新薬の元になる抗生物質など生理作用をもった分子が含まれます。これら目には見えない分子を生物材料から抽出し化学構造を解明することが面白く、これまでに150を超える新しい天然物を発見するに至りました。昔はこのように化合物をどんどん発見して論文にして満足していたのですが、最近では、こうした伝統的手法は評価されにくいということで、天然物が生体内でどのように合成されるのか、生理作用が発揮される際に細胞内で何が起きるのか、といった領域まで踏み込んで研究しています。私のような化学屋がこうした学際的研究を進める上で欠かせないのが共同研究で、本研究科はそういった機会をたくさん提供してくれる環境でした。改めて感謝する次第です。

私にとって退職までの数年間は激動の時期でした。一つは3年間続いた新型コロナウイルス禍です。万人に共通することですが、会話・会食の機会は減り、目から上で相手を識別するといった状況下、残念ながら学生との繋がりが希薄になった気がします。何とか乗り切りつつある研究科、大学、そして日本にエールを送りたいと思います。二つ目は研究科執行部の一員として4年間（ちょうど令和最初の4年間）、管理運営に携わったことです。2年目には法人統合による東海機構設立があり、農学系部局間の連携も大きな議論を呼びました。部局のメンテナンスの大変さに加え、大学当局との関係性も軽視できません。部局評価が大学からの予算配分に反映され、大学もその評価が国からの配分額に影響する時代に突入したからです。資本主義社会では競争原理は重要な要素ではありますが、はたして高い質と倫理性をもった研究が担保されるのか、教員の忙しさや論文数の減少などを見ていると不安にもなります。ただ、船がしっかり浮いてくれないと船員も乗客も安泰ではられないのも然り。国際卓越研究大学認定には、名大卒業生としても期待したいところです。

大学を取り巻く環境は大きく変貌しつつあり、これからは大小様々な課題に向き合うことになるかと思いますが、こうした荒波を乗り越え研究科および同窓会が益々発展されることを祈念いたします。

44年間の研究生活を振り返って

生物機能開発利用研究センター 上口美弥子



私は、1986年に京都大学農学研究科博士後期課程を修了しました。当時は、発酵生理及び醸造学研究室に所属し、ビタミンH(ビオチン)の微生物生産・代謝研究を山田秀明教授、和泉好計助教授のご指導の下で行っていました。後に私の研究は随分と方向性が変わったのですが、この時に教えていただいた酵素、酵素反応、代謝という考え方が私の研究の基本となったように思います。卒業後、大阪府立公衆衛生研究所の食品化学課に就職し6年間の業務・研究の後、名古屋大学に移り渡辺昭教授、森仁志教授の下で初めて植物の研究に取り組みました。1996年には、生物機能開発利用研究センター(当時の呼称は;生物分子応答研究センター)の松岡信教授の下で、当時はまだ珍しかったポスドクとして、イネの研究にたずさわることになりました。

時代はまさに、International Rice Genome Sequencing Project (IRGSP)が日本を中心に10カ国による国際プロジェクトとして始まろうとしていました。センターの研究には、さらに北野英己教授、芦荻基行教授も参画され、イネ最強チームが出来上がりました。そんな時分、私は北野先生の矮性変異体コレクションの中に、一際小さく、濃緑葉を持つ変異体イネを見つけ、解析させていただき許可を得ました。これが後の*GA insensitive dwarf1 (gid1)*変異体で、これにより世界で初めてジベレリンの受容体を同定することができました。GID1受容体は、カルボキシシルエステラーゼとよく似た構造で、

触媒3残基の内2つが保存され、その活性中心にジベレリンが結合していることを構造解析の結果明らかに

しました。このような理解についても、学生時代に酵素や酵素反応を研究したことがとても役立ちました。

その後も、イネ最強チームの中でジベレリン生合成、代謝、シグナル伝達に関わるイネ変異体とその原因遺伝子を明らかにすることにより、単子葉植物におけるそれらの経路を解明することができました。その後、私はセンターの准教授・教授となりましたが、退職間際まで研究員や学生とそのようなエキサイティングな研究を続けることが出来、また、植物研究の双壁であった双子葉シロイヌナズナの世界中のグループと日々戦い続けることができたことは、何よりも幸せな研究生活であったと思います。

私は、微生物・公衆衛生学・植物と様々な研究対象を相手としてきており、回り道をしてきたとも言えます。それは1つに女性研究者であったからかもしれませんが、それらは決して無駄ではなくて、それぞれが大きな1つの道に結びついていったことを実感しています。そして、お世話になった全ての先生、共同研究者、研究員、院生、テクニシャンの方々にこの場を借りて新たにお礼を申し上げたいと思います。

令和5年度名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会 代議員会、総会、講演会、懇親会のご案内

名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会では、名古屋大学ホームカミングデイに合わせて代議員会、総会、講演会、懇親会を開催いたします。詳細は、同窓会ホームページ (<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>)にてご案内いたしますので、後日ご確認ください。

○代議員会

日 時：2023年10月21日（土） 昼頃

場 所：名古屋大学農学部

○総会、講演会

日 時：2023年10月21日（土） 午後

場 所：名古屋大学農学部

会 費：無料（講演会は一般に公開いたします）

講 師：藤井 潔（ふじい きよし）氏

昭和54年3月農学部農学科卒業 愛知県米麦振興協会

演 題：『母校が教えてくれた「見果てぬ夢」へのチャレンジ精神』（仮）

○懇親会

日 時：2023年10月21日（土） 夕刻

場 所：名古屋大学農学部（予定）

連絡先：農学部・生命農学研究科同窓会 幹事会 総務 木羽 隆敏

メールアドレス：kiba@agr.nagoya-u.ac.jp

同窓会の開催について

同日に個人的に同窓会を企画される場合、農学部・生命農学研究科同窓会の懇親会を1次会としてご利用いただくことができます。同窓会事務局 (dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp) まで事前にご連絡下さい。必要に応じて、同窓会ホームページを掲示板としてご利用いただくこともできます。

第19回卒業生および修士第17回修了生の卒業50周年記念祝賀会の案内

学部第19回卒業生および修士第17回修了生の50周年記念祝賀会は、名古屋大学ホームカミングデーに合わせて2023年10月21日に開催する予定です。後日、祝賀会へのご招待状を送付させていただきます。万障お繰り合わせの上ご出席ください。祝賀会に関する情報は8月以降に同窓会ホームページ (<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>) に掲載いたしますので、ご確認ください。

卒業生の言葉

学生生活を振り返って

生物環境科学科 森林社会共生学研究室 村上 光

この4年間を一言で表すならば、「協働」という言葉になるでしょうか。協働とは立場の違う人々が何か特定の目標に向かって力を合わせることです。私は、特にサークル活動と卒業研究を通してこれを実感することができました。

私は入学当初から4年間アカペラサークルに在籍していました。アカペラは一人では演奏を完成させることができません。より満足のいく演奏をするためには、メンバー同士意見を出し合いながら練習を積み重ねる必要がありました。また、サークル運営にも携わり、サークル員が楽しく円滑に活動ができるように話し合いを重ねました。考え方の違いもあり意見が上手くかみ合わないこともありましたが、互いを尊重し、高め合えるメンバーに恵まれて、楽しく充実した日々を過ごすことができました。

卒業研究では、森林を利用した自然幼児教育「森のようちえん」について取り上げました。当初は園児への教育効果の高さに注目していたのですが、次第に保育を支える周りの大人に注目してみたいと思うようになりました。調査を進めるにつれて、園児にとってよりよい教育環境を整えるために、様々な大人が力を合わせて環境整備をする姿が見えてきました。屋外での整備活動は時に重労働でつらい作業も多いものの、参加者は協働することに大きな価値を見だしており、保護者同士の交流の場や地域を巻き込んだコミュニティとして園を支える場であると捉え、前向きに活動に取り組んでいました。大学院進学後も同じテーマで研究を進めますが、森林や自然の管理を通じた協働のかたちについて、見て聞いて体験して学びを深めていきたいと思っています。

最後になりますが、充実した日々をともに過ごした仲間たち、ご指導いただいた先生方や先輩方、調査にご協力いただいた方々、そしてどんな時も支えてくれた家族に感謝申し上げます。



4年間を振り返って

資源生物科学科 植物生理形態学研究室 浅原 南

私が名古屋大学に入学してからもう4年。本当にあっという間でした。この4年間は、勉強だけではなく、多くの出会いや経験を得ることができました。その中で、私が最も思い出深い出来事は、名古屋大学国際喫煙館での寮生活です。

私は岡山出身なのですが、名古屋という遠い地で一人暮らしを始めるのはとても不安で、同じ学年の仲間がすぐ近くに住んでいるのはとても心強かったことをよく覚えています。入寮してから沢山の新鮮イベントなどが企画されており、同期や先輩とすぐに仲良くなることができました。

寮生活では、先輩後輩関係なく、困ったことがあれば相談に乗ってもらったり、一緒にご飯を作ったり、テスト勉強をしたり、長期休みには旅行へ行ったりみんなで夜通し映画鑑賞をするなど、家族のような存在で、普通の生活では築けないような関係を作れたと思います。普通なら知り合うこともなかった学部や学年の人と仲良くなることができ、今後の人生で大切にしていきたい価値観や考え方をたくさん吸収することができました。私が寮で過ごした4年間は、かけがえない経験で、寮に入って本当に良かったと思っています。

また、就職活動は私の今後の人生でやりたいことを可視化する大きな機会でした。それまではあやふやに考えていた将来も、今までの自分を振り返ることができたおかげで、自分が具体的に何をしたいのかをよく考えることができました。結果的には就職をやめて大学院への進学を選んだのですが、また2年間で沢山の経験ができれば良いなと思っています。

最後に、充実した学生生活を送れたのは、家族や指導してくださった先生方、友達のおかげです。大学院に進学してからも、もっと成長した姿を見せられるように頑張ります。本当にありがとうございました。



大学4年間を振り返って

応用生命科学科 植物統合生理学研究室 山中佐和子

私の大学生活を語る上で欠かせないのが、女子ラクロス部の存在です。大学生になったら新しいことを始めたいと漠然と考えていた私にとって、全員が初心者で始められるスポーツはとても魅力的でした。

朝練のために始発に乗ったり、昼休みも自主練したり、家に帰ったら練習のビデオを見返したり、日付が超えるまでミーティングしたり、土日両方練習したりと、とにかくラクロス漬けの毎日でした。3年生になると幹部を任せられ、チームを一つにまとめ上げながら目標に向かって前進する難しさを感じました。さらにこの頃は学業も忙しくなり、学業と両立させることもかなり大変でした。しかしこのような困難を乗り越えたからこそ、試合で点を取ったり守り切ったりする楽しさや勝つことの喜びを人一倍感じる事ができました。目標にしていた全国大会4位入賞には及ばなかったものの、引退試合では最後までチーム全員が勝利を信じて戦い抜いたこと、たくさんの人に応援されるチームになったことをとても誇りに思っています。

4年生からは、卒業研究のために研究室に配属しました。そこで私は、植物の昼夜や季節への適応に必要な概日リズムというシステムについて研究をしています。世界で誰も知らなかった現象や物質を発見でき、とてもワクワクしています。卒業後は大学院に進学しますが、引き続き研究に励みたいと思っています。また学内のサポートによって、今年の2月に、オーストラリアに短期留学する予定です。コロナ禍にも関わらず、このような機会を与えてくださった農学部の先生方をはじめとした方々に感謝します。

最後になりましたが、大学生活を支えてくれた家族、友人、先生方、先輩方、後輩のみなさんに心より感謝申し上げます。コロナ禍でありましたが、皆さまのお陰で充実した大学生活を送ることができました。今後ともよろしく願いいたします。



大学での生活を振り返って

応用生命科学専攻 植物細胞機能研究室 寄高雄介

卒業生の言葉を作成するにあたり、自分の大学生活を振り返ると、あっという間だったと感じています。6年間、大小、苦楽問わず様々な経験をする事ができました。自分の学生生活では、部活動と研究室での活動が占めていた部分が非常に大きいと思います。

前半の3年間のうち、自分の中で一番思い出になっているのは、アーチェリー部での活動です。アーチェリーは大学から新しく始めた競技でしたが、新しく始めたからこそ大会のたびに上達していると感じ、より練習に取り組みました。また、七大戦や名阪戦では、普段同じ大会に出場することのない学校と対戦をした際に、その実力差を痛感して悔しい思いをしたことも今では良い思い出となっています。

後半の3年間は学校での活動のほとんどが研究室に関連したものでした。研究室の思い出を振り返る上で、感染症の流行による行動制限という出来事は避けては通れないと思います。研究室に配属される直前に流行が始まり、ほとんど研究室に行くことなく約2か月が過ぎました。初めて経験するセミナーもオンラインで、慣れない発表や画面の操作に苦心したことを鮮明に覚えています。夏が近づくにつれ行動制限が緩和されると、本格的に実験がスタートしました。感染対策などに気を使いながらも、実際に同期や先輩方と顔を合わせて実験をする生活はとても楽しかったです。そこからの約2年の月日は卒業論文、講義、TA、就活をこなすうちにあっという間に過ぎていき、気が付けば学生生活も残り数か月になっています。

学生生活では、楽しかったことも辛かったこともたくさん経験しました。そのすべての経験が自身を成長させてくれたと感じています。来年度から社会人となり不安もありますが、新しい環境でもこの経験を活かすことができると思っています。最後になりましたが、学生生活でお世話になったすべての方に感謝いたします。ありがとうございました。



令和4年度総会の報告

名古屋大学農学部同窓会は、新たに一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会となり(令和3年12月21日定款認証、令和3年1月14日設立登記)、令和4年10月15日(土)に一般社団法人として初の総会および旧組織最後の総会を開催いたしました(名古屋大学農学部12講義室における対面とZOOMを併用するハイブリット開催)。総会に先立ち、まずは同窓会会長と同窓会名誉会長(生命農学研究科長)との間で「名古屋大学農学部・生命農学研究科との連携協力に関する覚書」の交換式が行われました。その後一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会総会において、設立-令和4年8月31日までの事業報告と決算承認、令和4年度(令和4年9月-令和5年8月)の事業計画と予算の承認、役員報酬規程の承認および会費規則・代議員選出規則・初交代議員の確認が行われ

ました。また、旧組織最後の総会では令和3年4月1日-令和4年3月31日の事業と決算の報告、令和4年4月1日-令和4年8月31日の事業と決算の報告が行われ、最後に清算結了報告がなされました。総会には現地25名、オンライン参加32名、合計57名の方が出席されました。



名古屋大学農学部創立70周年記念事業報告

名古屋大学農学部は1951年(昭和26年)、大学院(旧農学研究科)は1953年(昭和28年)に創立され、70周年の節目を迎えました。それを記念し、令和4年10月15日(土)に一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会と名古屋大学農学部との共催で「名古屋大学農学部創立70周年記念事業」が行なわれました。このイベントではスローガンを、「名古屋大学から発信する新しい農学～現在・過去・未来～セコイアと共に～」と題し、各界でご活躍されている4名の卒業生によるご講演、そしてコメンテーターも参加するパネルディスカッションが行われました。

【講演】

「名古屋大学農学部・生命農学研究科のいま」

生命農学研究科長・農学部長 土川 寛
「日本の森林 過去・今・未来～伐って使って植える循環によるグリーン成長を目指して～」

林野庁 森林整備部長 小坂 善太郎
(旧林学科 1987年度学部卒業)

「みどりの食料システム戦略」

農林水産省 大臣官房技術総括審議官 兼
農林水産技術会議事務局長 川合 豊彦
(旧農学科・農学専攻 1986年度学部卒業 /
1988年度大学院博士前期課程修了)

「家畜用飼料の現状と将来について」

豊橋飼料株式会社 テクニカルセンター執行役員
中嶋 真一

(旧畜産学科・畜産学専攻 1985年度学部卒業 /
1987年度大学院博士前期課程修了)

「食品企業の経営」

株式会社ブルボン 代表取締役社長 吉田 康
(旧農芸化学科 1978年度学部卒業)

【パネルディスカッション】

コメンテーター：小川 雄二(同窓会長)、石川 靖文(同窓会関東支部長)、加藤 壽郎(同窓会関西支部長)、東村 博子(生命農学研究科教授・名古屋大学副総長)
司会：池田 素子(生命農学研究科教授)

農学部・生命農学研究科(農学研究科)が歩んできた70年に想いを馳せるとともに、「新しい農学」への期待と、歴史と伝統をいかに次世代へ繋げるかについて、皆で考えました。このイベントには現地参加90名、オンライン参加45名、合計135名の方が出席され、大変盛況なものとなりました。



2022年度名古屋大学大学執行体制・全学組織における役職者 (生命農学関係分)

審議役	川北 一人	トランスフォーマティブ生命分子研究所拠点長	
副総長（男女共同参画・多様性担当）	束村 博子		吉村 崇
評議会選出評議員	池田 素子	附属図書館副館長	浅川 晋
アジアサテライトキャンパス学院長	山内 章	高等研究院副院長	榎原 均
統合生命医科学糖鎖研究センター所長（センター長）		学術研究・産学官連携推進本部副本部長	福島 和彦
	佐藤ちひろ		

農学部・生命農学研究科同窓会ホームページ案内

農学部・生命農学研究科同窓会の活動や、農学部研究室の変遷などに関する情報は、名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会（セコイア会）ホームページ（<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>）に掲載中です。住所変更の案内もございます。ぜひご覧ください。ホームページに関するご意見やご要望等がございましたらぜひお寄せください。（担当：浜島 hamajima@agr.nagoya-u.ac.jp）

令和3年度事業報告および令和4年度事業計画案

(旧同窓会) 令和3年4月1日～令和4年3月31日事業報告

- 1) 卒業・修了50周年記念企画の実施
卒業・修了50周年の方々よりお寄せ頂いた寄稿文をまとめ、卒業・修了50周年記念企画「同窓生からの寄稿文」として、令和3年10月16日より、農学部同窓会ホームページにて公開した。
- 2) 総会、講演会の開催
令和3年10月16日、Zoomを利用してオンラインによる総会および講演会を開催した。
講演会：福與信二氏（サントリースピリッツ（株）執行役員、5代目チーフブレンダー）
「ジャパニーズウイスキーの歴史と現在」。
Zoomによるライブ配信。
- 3) 新入生関連行事
新入生ガイダンスにおいて会報やパンフレットを配布し、同窓会の活動内容の周知と入会案内を行った。
- 4) 卒業・修了関連行事の開催
令和3年9月27日の秋期卒業式にて記念品を授与した。
令和4年3月25日に卒業・修了祝賀会を開催した。
- 5) 会報「セコイア通信」の発行
令和4年3月に発行した。
- 6) ホームページの作成と管理
同窓会ホームページのアップデートを完了するとともに一層の充実を図った。
- 7) 同窓会名簿データの管理
同窓会名簿データの更新を行った。
- 8) 全学同窓会への協力
全学同窓会幹事会に役員を出し、運営に協力した。
- 9) 同窓会組織改革
同窓会組織改革について、引き続き議論ならびに準備を進め、新組織の組織案、定款案などを作成した。

(旧同窓会) 令和4年4月1日～令和4年8月31日事業報告

- 1) 一般社団法人組織の具体化
令和4年9月1日以降の一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会の実働に必要な規約（会費規則および代議員選出規則）と組織の整備、財産やデータ移行、事務局の具体化など実務上の準備を行った。
- 2) ホームページの作成
一般社団法人同窓会ホームページを準備した。
- 3) 総会開催の準備
一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会の令和4年度総会開催にむけた準備を行った。
- 4) 卒業・修了50、51、52周年記念企画の準備
Covid-19の影響により過去2年間50周年記念企画を開催できなかったため、今年度は50、51、52周年記念企画を開催することとし、この準備を行った。
- 5) 農学部創立70周年記念事業（農学部との共催）の準備。
農学部創立70周年記念事業（農学部との共催）に向けて準備を行った。
- 6) 令和4年7月16日に評議員会を開催した（対面とZOOMのハイブリッド開催）。
評議員の方々に一社化後の代議員へのご就任をお願いするとともに、その内容について説明した。その後代議員選出規則のメール審議を経て、Googleフォームにより代議員への就任の可否を伺った。

(一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会) 設立～令和4年8月31日までの事業報告

- 1) 同窓会設立・定款認証・設立登記
令和3年10月16日に同窓会設立、令和3年12月21日定款認証、令和4年1月14日設立登記を行った。
- 2) 臨時社員総会の開催
令和3年12月25日、令和4年1月21日、令和4年2月8日に臨時社員総会を開催した。
規定等の承認を行った。
- 3) 旧同窓会との合同理事会の開催
令和4年4月27日、令和4年5月31日、令和4年7月7日、令和4年8月2日に新旧合同理事会を開催した。ここで新組織への円滑な移行などについて議論した。
- 4) 会費規則、代議員選出規則の策定
会費規則および代議員選出規則を作成し、臨時社員総会において承認した。
- 5) 代議員の選出
旧同窓会評議員から代議員を選出した。

(一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会) 令和4年度(令和4年9月～令和5年8月) 事業計画

- 1) 名古屋大学農学部同窓会(旧同窓会)からの会員・財産の移行
令和4年(2022年)9月1日をもって、名古屋大学農学部同窓会(旧同窓会)の事業・会員(15,714人)・財産(現預金23,364,656円ほか)のすべてを、一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会が継承する。
- 2) 名古屋大学農学部・生命農学研究科との連携協力に関する覚書交換式
名古屋大学農学部・生命農学研究科との連携協力に関する覚書交換式を開催する。
- 3) 総会の開催
令和4年10月15日、名古屋大学農学部第12講義室において総会を開催する(対面とオンラインのハイブリット開催)。
- 4) 卒業・修了50周年記念祝賀会の開催
令和4年10月15日に卒業・修了50周年を迎えた方をご招待し、農学部卒業50周年記念祝賀会を開催する。あわせて、過去2年間に延期した令和2年10月または令和3年10月に卒業・修了50周年を迎えた方の農学部卒業50周年記念祝賀会を開催する。

5) 農学部創立70周年記念事業の共催

令和4年10月15日に名古屋大学農学部との共催で農学部創立70周年記念事業「名古屋大学から発信する新しい農学～現在・過去・未来～セコイアと共に～」を開催する。名古屋大学農学部第12講義室において、各界でご活躍されている4名の卒業生によるご講演、そしてコメンテーターも参加するパネルディスカッションを行う。

6) 卒業・修了祝賀会の開催

令和5年3月25日に卒業・修了祝賀会を開催する。

7) 秋季卒業・修了祝賀会における記念品配布

秋季卒業・修了祝賀会において記念品を配布する。

8) 会報「セコイア通信」の発行

令和5年3月に発行する。

9) 同窓生の参加を促す事業の考案、連絡体制の強化

同窓生が同窓会に参加しやすくなるよう事業を考案する。またメールアドレスの収集など、同窓生への連絡が円滑に行えるようにする。さらにホームページも利用し、同窓生への連絡体制を強化する。

10) ホームページの作成と管理

同窓会ホームページのアップデートを完了するとともに一層の充実を図る。

11) 事務局機能の充実

同窓会が一般社団法人化したため、事務局機能の整理が必要となる。

理事・監事・幹事・事務局の仕事を整理し、適宜削減・拡充を行う。

12) 支部活動の支援

卒業生への名簿適用など、支部活動への支援を行う。

13) 資産運用計画の立案

資産運用計画の提案を行う。

14) 同窓会名簿データの管理

同窓会名簿データの更新を行うとともに、要請に応じて名簿情報の提供を行う。

15) 全学同窓会への協力

全学同窓会幹事に役員を出し、運営に協力する。

16) 新規事業の考案

農学部・生命農学研究科同窓会の交流を活性化するための新たな事業を考案する。

17) 名簿の発行

名簿の発行を行う。

名古屋大学農学部同窓会 令和3年度決算

令和3年4月1日～令和4年3月31日

【収入の部】

費目	決算	細目	金額	備考
会費等	2,288,000	永久会費	1,480,000	74名
		一般会費	170,000	34名
		寄付金	504,000	76名
		広告掲載費	134,000	9件
令和3年度総会懇親会費	0			中止
前年度繰越金	22,236,758			
合計	24,524,758			
(実質収入 2,288,000)				

【支出の部】

費目	決算	細目	金額	備考
会報発行費	1,638,037	会報印刷費	605,000	10000部(8900部発送)
		発送費	1,021,037	
		会報作成費	12,000	記事執筆の返礼品
令和3年度総会	7,370	講演料	0	講演料を辞退
		講師交通費	0	オンライン開催
		役員交通費	0	オンライン開催
		懇親会費	0	中止
		通信費	7,370	オンライン会場設置
第16回卒業50周年祝賀会	0	飲食代	0	中止
		事務費	0	印刷・発送
卒業・修了祝賀会	213,593	飲食代	0	中止
		記念品代	173,593	
		役員交通費	40,000	3名
組織改革関連費用 一般社団法人の立替金	226,730	法人設立費用		設立費用を旧同窓会で立替払い
		司法書士報酬	100,000	定款作成、手続き代理
		登記費用	126,730	印紙税など
ホームページ管理費	0		0	
役員報酬	168,000		168,000	14名×12000
支部支援金	90,000	関東支部	60,000	令和3年度分
		関西支部	30,000	令和3年度分
事務局員雇用	1,000,000	大学への寄付		1名
郵便振替手数料	30,245			
その他諸費用	7,515	交通費	0	オンラインで理事会開催
		課税納付	4,778	役員報酬・講演料・アルバイト代
		通信費	2,737	郵送費・送金手数料など
		事務費	0	文房具など
剰余金	21,143,268			
合計	24,524,758			
(実質支出 3,381,490)				

名古屋大学農学部同窓会 令和4年(4-8月)決算

令和4年4月1日～令和4年8月31日

【収入の部】

費目	金額	細目	金額	備考
会費等	2,676,585	永久会費	1,660,000	83名
		一般会費	195,000	39名
		寄付金	702,067	61名
		広告掲載費	119,518	8件
前年度繰越金	21,143,268			
合計	23,819,853			
(実質収入 2,676,585)				

【支出の部】

費目	金額	細目	金額	備考
会議費	2,360	飲食費	2,360	評議委員会
事務局員雇用	420,000	大学への寄付	420,000	4-8月期分
郵便振替手数料	30,002		30,002	
その他諸費用	2,835	通信費	2,010	郵送費・送金手数料など
		事務費	825	文房具など
一般社団法人名古屋大学農学部・ 生命農学研究科同窓会への寄付金	23,364,656	預金 現金	23,327,348 37,308	8月末の残額を新組織に移管
合計	23,819,853			
(実質支出 455,197)				

一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会 令和3年度決算

令和3年10月16日～令和4年8月31日

【収入の部】

旧同窓会からの借入	226,730	立替金	226,730	一般社団法人の設立費用
前年度繰越金	0			
合計	226,730			

【支出の部】

費目	金額	細目	金額	備考
一般社団法人の設立費用	226,730	司法書士報酬	100,000	定款作成、手続き代理
		登記費用	126,730	印紙税など
合計	226,730			

一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会 令和4年度予算

令和4年9月1日～令和5年8月31日

【収入の部】

費目	金額	細目	金額	備考
会費等	2,520,000	永久会費	1,600,000	80名
		一般会費	200,000	40名
		寄付金	600,000	60名
		広告掲載費	120,000	8件
令和4年度総会懇親会費	0			中止
前年度繰越金	0			
旧同窓会からの寄付金	23,364,656			
合計	25,884,656			

(実質収入 2,520,000)

【支出の部】

費目	金額	細目	金額	備考
会報発行費	1,440,000	会報印刷費	400,000	1000部(8900部発送)
		発送費	1,020,000	
		作成費	20,000	
令和4年度総会	52,000	講演料	0	講演会は中止
		講師交通費	0	(70周年事業共催で代替)
		役員交通費	42,000	4名
		懇親会費	0	中止
		通信費	10,000	オンライン会場設営
卒業50周年祝賀会	131,000	飲食費	108,000	過去2年延期分も含む
		印刷発送費	15,000	招待状など
		記念品代	6,000	記念写真
		事務費	2,000	文房具など
卒業・修了祝賀会	292,000	飲食費	110,000	春季のみ開催
		記念品代	140,000	春季および秋季
		役員交通費	42,000	4名
農学部創立70周年記念事業 (学部・研究科との共催)	1,044,012	印刷発送費	1,024,012	案内状×8400通
		会議費	20,000	飲料×200
ホームページ管理費	10,000	広報費	10,000	通常の記事更新
支部支援金	90,000	関東支部	60,000	令和4年度分
		関西支部	30,000	令和4年度分
役員報酬	168,000	理事、幹事	168,000	12,000×14名
事務局運営費	1,050,000	大学への寄付	1,000,000	事務局員1人の雇用費として
		事務所賃料	50,000	デスク、倉庫
一般社団法人体制の 立ち上げにかかる費用	158,000	印刷費	50,000	印刷物の更新
		諸謝金	55,000	会計士報酬
		事務費	50,000	旧同窓会の不用品廃棄
		契約書作成費	3,000	大学とのMOU締結
その他諸費用	80,000	支払手数料	40,000	郵便振替手数料、送金手数料など
		課税納付	5,000	役員報酬・講演料など
		通信費	25,000	発送費など
		事務費	10,000	文房具など
予備費	10,000	予備費	10,000	新規事業の調査費など
剰余金	21,359,644			
合計	25,884,656			

(実質収入 4,525,012)

70周年記念事業及び (3,323,000)

社団立ち上げ費用を除く

令和4年度 同窓会 役員

名誉会長	土川 覚 (研究科長・生物システム工学)	柴田 秀樹 (分子細胞制御学)	
会長	小川 雄二 (学外)	伊藤 香純 (実践アジア開発)	
理事 (副会長)	福田 秀志 (学外)	三屋 史朗 (植物生理形態学)	
(関東支部長)	石川 靖文 (学外)	幹事 (HP)	浜島 りな (資源昆虫学)
(関西支部長)	加藤 壽郎 (学外)	幹事 (名簿)	松山 秀一 (動物生産科学)
幹事長	福島 和彦 (森林化学)	幹事 (会報)	岩永 青史 (森林社会共生学)
副幹事長	稲垣 哲也 (生物システム工学)	幹事 (会計)	中道 範人 (植物統合生理学)
監事	田中 隆文 (森林水文・砂防学)	武田 真 (植物細胞機能)	
監事	邊見 久 (応用酵素学)	事務	赤池美紀子
幹事 (総務)	木羽 隆敏 (植物情報分子)		

関東支部だより

関東支部長 石川 靖文 (S56食 D)

関東支部では、初夏の「新卒者歓迎会」(副支部長担当)と晩秋の「総会」(支部長担当)を定例としている。ともに東京神田・學士會館での開催が恒例であったが、ここ数年はコロナ禍で、リモートでの実施を余儀なくされてきたところ、今年度はコロナの感染状況をみながら、久しぶりの“本拠地”開催となった。

「歓迎会」は、令和4年6月18日(土)11:00開始、近年卒業者と支部役員を含め9名が参加した。コロナ禍でリモート会議ばかりのこともあり、直接会うのが初めての役員が過半であった。近況紹介などの後、花菖蒲が盛りの皇居東御苑を散策し、親交を深めた。

第25回関東支部「総会」は、令和4年11月12日(土)13:30～17:30に開催された。参加者は、会場参加18名、リモート参加13名の合計31名であった。関西支部会員の方々、中部地区会員、學士會事務局薄井マネージャーなどの参加も得ることができた。

総会議事の部では、近藤幹事の進行で、小職の挨拶、横井監査役の会計監査報告に次いで、本部幹事長の福

島先生に、一般社団法人化など本部の活動についてお話しいただいた後、次年度役員を選出を行った。特別講演の部では、小西副支部長の進行で、食品機能化学研究室教授の柴田貴広先生(H18応分 D)に「食の機能性と疾患予防の可能性」について、支部幹事の牧田雄介さん(S46林産)に「油絵と仕事と人生と」について、それぞれお話を伺った。

会計監査は承認され、次年度役員についても、現執行部の再任が議決・承認された。本部の活動については、本誌別記事をご参照いただきたい。

柴田先生の講演は、自己紹介、研究室紹介、農学部 の教育理念(食・環境・健康)の紹介、そして、いつの時代になっても「食」は人間生活の基本であり、昨今の食を取り巻く環境から見ると「農学部にとっての正念場」にきている——との強い現状認識から始まった。

これを前振りとして、【食の重要性と多様性>食が関係する社会問題>食品とは何か>食品の機能>保健機能食品>特定保健用食品>機能性食品成分による生活習慣病の予防>疾病診断マーカー>細胞外小胞(EVs)】と展開。「食」に対する問題提起と食品機能研究による解決と、間口を広く取って、ご自身の研究





の俯瞰的な位置付けを明確にしなが、現在の研究のトピックスとして「機能性食品成分による生活習慣病の予防」と「疾病診断マーカー」について話された。

「予防」については、抗炎症活性を示す野菜抽出物として（キャベツ）イベリンによるTLR（Toll-Like Receptor）阻害活性の研究が紹介された。炎症誘導物質（TLR）にイベリンがダイレクトに結合して不活性化するというもので、マウス・レベルでの効果が確認されているとのことである。

「マーカー」については、わが国の人工腎臓透析の現状に鑑み、特に糖尿病性腎症の早期診断が必要との問題意識から、非侵襲性診断リソースとしての細胞外小胞（Extracellular Vesicles：EVs）に着目。ヒト尿中EVsのバイオマーカーへの応用を企図。その候補を探求し、IDH1タンパクを見いだしたとのことであった。

質疑応答では、「幅広く研究されているが、予算は大丈夫か？」「イベリンは生キャベツでなく調理したロールキャベツのようなものでも有効か？」「EVsの分離法は？」と、様々な角度からの問い掛けがなされた。

牧田さんの講演は、若い頃から描きためた100枚の絵の中から32枚を選び、スライド展示・説明するという、さながら「人生語りおろし」であった。絵に興味を持ったのは小学生時代、先生に教えられて。以来、退職後の今日も描き続けているとのことであった。

山陽パルプに入社。社会人になってからは、山口県岩国工場勤務時代『パルププラント』で市長賞を受賞、島根県江津工場勤務時代は、個展を開催して展示作品完売、売上は経費と宴会で全て使い切った——といった逸話も披露された。『マッターホルン』は主治医のクリニックの待合室に、『孫娘』はご当人の家の玄関に、『ぴんころ地蔵』は自宅リビングに、『智照院』はご実家菩提寺に、それぞれ掲げてあるとのことであった。

絵を描き出すと3～4時間は、それしか考えておらず、終わるとドッと疲れがでる。絵は見たそのままではなく、空の色や配置などに手を加えて、後で思い出しやすいようにしているとか。人物群の中には必ず1人ご自身を描き込んでいるが、これは画家の遊び心とみた。若い頃は「廃材」もテーマにし、近年は「枯れ

ゆく紫陽花』も描かれている。滅びゆくものに美を見いだすのは、やはり日本人ならではの感性であろうか。

絵の質の高さと量の多さに圧倒されるとともに、多忙な会社員人生の中で、これを可能にされたご本人の努力、意志の強さ、生活の工夫、そしてご令室のサポートに思いをいたし、驚沢な人生を歩んで来られたものよと、羨望を禁じ得ない次第であった。

質疑応答で好きな画家を訊かれた牧田さんは、躊躇せず佐伯祐三を挙げたが、彼の激しいタッチに惹かれ、『リュクサンブール公園』を模写したとのこと。他にも「自分も水彩画をやっているので参考になった」「生涯継続されているので、油絵は人生と一体化している」といった感想が述べられた。

リモート参加者からは、柴田先生のご講演と牧田さんのお話、エンタメさながら、週末の午後を自宅で楽しく過ごすことができた——などの感想が寄せられた。

講演終了後、学生歌「若き我等」を斉唱、記念写真を撮影、ここでリモートは終了。次いで、松本幹事の進行で、会場参加者の懇親を図るべく、自己紹介のコーナーに入った。定年退官後も現役時代と変わらず研究に余念がない、支部総会の講演が切っ掛けの「スポーツ吹矢」で健康維持、マラソン大会参加、企業経営で雇用確保など、諸先輩たちから活力を頂いて、元気づけられた（お尻を叩かれた）後輩たちであった。

今回は、特に本部において「名古屋大学農学部創立70周年記念3点セット（トートバッグ、ボールペン&クリアファイル）を恵与いただき、会場参加者には全員に、リモート参加者には希望者に配布した。

また、柴田先生の講演については、學士會の総合情報誌『NU7』2023.7 No.48に掲載の上、同誌を、学部3年生以上の全学生と全教職員に配布の予定である。

次回新卒者歓迎会については、本年6月10日（土）に、また第26回総会については、同10月14日（土）に、それぞれ學士會館で開催の予定である。

名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会

関西支部だより

関西支部長 加藤 壽郎 (S45農 M)

関西支部の主な活動は、例年11月の総会、講演会、懇親会となっておりますが、長引くコロナ禍により、ここしばらく開催できておりません。そこで、会員相互の交流を維持発展させるため、2022年3月から、支部会報を発刊して電子メールで配信することといたしました。会員の皆様からの積極的なご寄稿により、3月と9月の二回、配信することができました。

会報の第一号では、6名の会員の方からのご寄稿がありました。東南アジアなど海外のお仕事が多い沖森泰行さん (S56林) からは、「コロナ禍の在宅テレワーク」と題して、コロナ禍で大きく変わったお仕事のやり方や日常生活についてご紹介いただきました。もうすぐ会社を離れる沖森さんにとって、在宅テレワークが次のステップの準備期間になったようです。また、長年、教育に携わってこられた大賀久美子さん (S54農化) からは、コロナ禍で学校教育や子供たちがどのように変わったかについて述べていただきました。学校では常時マスクをして、昼食は黙食、行事も簡素化されるなど、人間関係が弱くなってきていることや、オンライン格差などを心配しておられました。次に、不要不急の外出自粛により自宅での生活がほとんどという大島洋二郎さん (S50畜産 M) からは、「この一年」と題して、そんなコロナ禍であっても、緊急事態宣言が解除された時期に、楽しめた趣味についてお書きいただきました。囲碁や鮎釣りを楽しみ、東海道を歩くといった目標を持って、健康に留意されているようです。また、長年、木材の研究や教育に携わってこられた林和男さん (S51林産 D) からは、木材に関連した様々な話題、例えば、屋久杉のこと、スギ花粉のこと、また、100m を超える高木の吸水の不思議、樹木から住宅になるまでの木材の歩留まりのことなど、興味深くお書きいただきました。一方、最近、会社生活を終えられたばかりの駒田肇さん (S55林産 D) からは、自由に考える時間が増え、「雑感一炭酸ガスと原発と達成できない目標一」と題して、温暖化が進む地球について深く考察していただきました。この大きな課題への、農学部出身者らしいよい知恵はないものかと、訴えていらっしゃるようです。最後のご寄稿として、最近、岐阜市から神戸市に引っ越してこられた馬路泰藏さん (S40農化) は、「歩いて体感 植物から見える神戸」と題して、付近を散歩して撮影された花木の写真とともに、街の様子を紹介いただきました。春の散歩を大いに楽しんでおられる様子が手に取るようにわかりました。

会報の第二号でも、6名の方からのご寄稿をいただきました。日本画家の木島櫻谷氏が曾祖父という門田理さん (S52林産 M) からは、代表理事をされてお

られる京都の櫻谷文庫の様子や数々の名画、木島氏の生涯などについて詳しくご紹介していただきました。また、発達障害児の療育機関で働いておられる大賀久美子さん (S54農化) からは、「発達障害の子どもたちに関わって」と題して、発達障害児にとって対人関係やコミュニケーションを身につけるトレーニング (SST) について述べておられました。会話はスマホの絵文字でとか、コロナ禍のソーシャルディスタンスなど、会話が減少しつつある世の中で、SST はますます必要では、と問題を投げかけておられます。次に、馬路泰藏さん (S40農化) は、「昭和30年代を思い起こす」と題して、『岐阜の昭和30年代を歩く』という著作の中で、岐阜県白川郷について部分執筆をされたことを紹介されました。長年、白川郷について研究されてこられた馬路さんは、幼少期から過ごした四日市市のことを回想しつつ、四日市市とは異なる歴史を刻んできた白川郷について感慨深く述べておられました。続いて、宮脇茂樹さん (S50畜産 M) からは、「アンチエイジングの実践」と題して、日頃実践しておられるアンチエイジング法をご紹介いただきました。腹7～8分目の控えめな食事、中強度の運動、前頭葉の鍛錬などについて、具体的にご説明いただきました。また、大学で研究を続けておられる小川拓哉さん (H27応分 D) からは、コロナで大学での生活が大きく変わった様子をご紹介いただきました。また、ご結婚され、奥様のご指南もあって、いろいろな料理メニューに挑戦されているようです。最後に、民間企業で研究に携わっておられる野口裕司さん (H22生機 D) から、「コロナ禍におけるコミュニケーション」と題して、コロナ禍で大きく変わった業務形態や、その利害得失、また、共同研究を進めることの難しさなどをご紹介いただきました。

以上、第一号、第二号の配信を通じて、これまでの総会や懇親会とは違った側面で会員相互の交流が図れるのではないかと感じております。これからも可能な限り、配信を続けたいと思っております。

なお、2023年度の関西支部総会は、11月11日 (土) 10:00～15:00、大阪中央電気倶楽部での開催を予定しております。コロナ禍により、開催できなくなるかもしれませんが、その節はご容赦ください。また、支部の会報配信をご希望の方は、下記あてご連絡ください。お送りいたします。

支部長 加藤壽郎 jardin-kato@hera.eonet.ne.jp
事務局 寺前朋浩 kssequoia23@gmail.com

名大遠州会だより

佐々木 健 (H5畜)

名大遠州会は、静岡県西部（大井川以西）に居住または勤務する名古屋大学、大学院またはその前身校出身者から構成され、平成8年に設立されました。同窓会を毎年、また総会は隔年で開催しています。残念なことに、令和4年度もコロナ禍の影響により開催中止となってしまいました。この間、お問い合わせいただいた卒業生の方もいっしょに、私自身もたいへん心苦しく、また申し訳なく思っている次第であります。現在のところ、令和5年度の遠州会の開催をどうするか、幹事を含めて検討中ではありますが、多少かたちを変えてでも会員の皆様が集う機会をつくることができれば…と、個人的には期待を寄せています。

ここで、初めて遠州会のことをお知りになる方に向けて、例年の内容を簡単に説明いたします。毎年6月の第二土曜日に70～80名前後の会員が集まり、名古屋大学総長や全学同窓会副会長も来賓としてお招きして90分ほどの同窓会（懇親会）を開催しております。また、ビンゴゲームやミニコンサートなども余興として盛り込んでおり参加者全員が楽しめる企画になっています。令和5年度について、開催の決定がなされれば、遠州会会員の皆様には案内状の郵送にてお知らせする予定です。何卒よろしく願いいたします。また、遠州地区にお住いでこのセコイヤ通信をお読みの方（名古屋大学農学部や大学院生命農学研究科の卒業生）で、この「遠州会」にご興味をお持ちの方は、当方にメール等でご連絡くださればご案内いたします。

さて、今年のセコイヤ通信も遠州会の同窓会に関して記載する内容が少ないので、ここからは私佐々木が例年同様、静岡県や遠州地区に関することを自由に書いてみようと思います。

ところで皆さん、突然ですがここで質問です。「静岡県」は「中部地方」や「東海地方」に含まれるのでしょうか？それとも「関東地方」に含まれるのでしょうか？これは、私が出席していたオンライン会議の雑談で、たまたま「静岡県に縁もゆかりもない人」から出た疑問でした。そしてその会議に参加していた「静岡県に縁もゆかりもない人たち」は、一様に首をかしげた末に、「静岡県の住人としてはどうなの？」と私に答えを求めてきたのです。がしかし…、そこには私自身も答えに窮する現実があったのです。

ということで、ここで静岡県の紹介も兼ねて考えてみましょう。まず、静岡県はとにかく横に長いため、東の熱海や伊豆は関東圏との、西の浜松は中部圏との交流が比較的多く、両地区はそれぞれ関東圏や中部圏の意識が少し強いように思われます。一方、農林水産業や工業のような産業は、静岡県の独自の発展を遂げています。また、TV（地上波）やラジオは、中部圏や関東圏の民放放送局のものはほとんど受信できませんし、番組も静岡県の放送局が独自に制作したものが

多いように見受けられます。NHKの天気予報はどうでしょう？NHK名古屋放送局が放送する天気予報には、東海3県と静岡県を別々に放送するものがよく見られますし、静岡県の予報は省略されていたものもあったように記憶しています。さらに、呼称としても東海四県よりも東海三県（愛知岐阜三重）が主流です。このようなことから、生活面では静岡県は東海（中部）地区でも関東地区でもない、良く言えば「独立した県」、悪く言えば「どっちつかずの県」と考えられそうです。一方で、選挙では比例東海ブロック、スポーツでは東海四県とか中部八県のようなくくりがあり、静岡県は東海地区、中部地区に編入されているもの少なくないようです。

ということで、こんなことを考え始めたらあっという間に一日が過ぎてしまいました。それに、私自身は生まれてから30年以上を愛知県で過ごし、静岡に移り住んで20年弱です。こんな人間が静岡県のことをあーだ、こーだと考察しては、生粋の静岡県人に失礼ですね。しかし、これは早く遠州会の皆さんとこんな他愛もないことでもおしゃべり出来たらなあ…と遠州会を恋しく思う裏返しなのかもしれません。ということで、つまらない内容であったかもしれませんが、今後ともこの遠州会を何卒よろしく願いいたします。

連絡先：遠州会農学部幹事 佐々木健

〒431-3192 浜松市東区半田山1-20-1

浜松医科大学 器官組織解剖学講座

Tel : 053-435-2293 Fax : 053-435-2290

Email : tsasaki@hama-med.ac.jp

農学部談話会からのお知らせ

談話会は2022年5月に会合を予定していましたが、新型コロナウイルスの蔓延下で中止、会合としては10月15日に同窓会行事（名古屋大学ホームカミングデー）に合流させていただきました。午前には卒後50周年の招待者（2年中止していたので、3学年分）の集まりがあり、談話会からは寺島典二先生に挨拶をしていただきました。寺島先生の他に退職教職員では服部一三、山木昭平、中村研三、松本哲男、柳沼利信の各氏から近況を語っていただきました。午後には創立70周年行事（農学部は2021年に、大学院は2023年）のシンポジウムがあり、在校生、卒業生の方が聴講しました。ここには退職教職員の堀尾文彦さんの顔が見られました。

談話会は平成14(2002)年10月11日に設立され、構成員は農学部を退職した教職員（有志）となっていますが、活動が低下している現状があります。寺島先生からは談話会への期待が語られ、ネット上での講演会や会合の活性化を提案されました。残念ながら主導できる世話人がいないことで、実現できないでいます。世話人を増やして対応するためにも自薦他薦をお願いする次第です。

連絡が届きました物故者は、2020年は1月21日垣沼淳司、2月8日住友 宏、12月27日齋藤哲夫、2021年は1月8日奥田聡、11月29日蓬原雄三、2022年は2月28日小林迪弘、7月10日武居幸子、9月3日山本進一、11月16日今関英雅の各先生方です。ご冥福をお祈りします。
(文責：織田銃一)

コロナ禍を想う

山下 興垂 (中部大学名誉学事顧問)

新型コロナウイルスの感染に恐怖感を覚えながらも、有効な為す術も見当たらず成り行き任せの日常に埋没しています。せめての息抜きに、古巣の大学に週3日ほど出向き、旧知や現



役との大学論や学問観についての無責任な放談を楽しんでいます。いかんせん、私の発想は現場からの熱い尖った切り込みではなく、すでに文字に落とし込まれた見解や政策論をネタにした論評に近く、臨場感において埋めがたい溝があることで、娑婆の厳しさを再認識しています。にもかかわらず、自分の立場を現役時代に逆回転させ、悦に入って過去を繰り返して再生していることの惨めさには無頓着を通す。やはり幸せ者か。

ところで、名古屋大学や農学部・生命農学研究科で飯をいただいたものとして、今日の活動状況を外から伺うにつけ、隔世の感を抱くことが多くなりました。それほどに大学は動き、人は変わり、学術研究は進んでいるのでしょうか。しかし、名大の地下水流は脈々と流れており、よく名大のモットーとして「勇氣ある知識人の育成」が日常的にあちこちで語られています。実は、この宣言は、「名古屋大学学術憲章（平成12年2月制定）」を出典としています。当時、私は副総長としてこの学術憲章の制定に深く関わってきましたので、この文言を聞いたり見たりするたびに当時の名大の立ち位置や将来構想について全学を挙げて深刻な議論を戦わせたことを懐かしく思い出しています。そして、この学術憲章が今後どう改訂され、さらなる名大の「世界屈指の研究大学」としての実績を挙げられるのかについても熱い期待を寄せています。

この度のコロナ禍は、想定外と呼ばれるいろいろなことを演じてくれています。私達に今一度立ち止まって、「来し方を静かに見直す忍耐と、行く末を熱く見定める勇氣」を持つことを求めていると思います。

「農学は実学」を楽しむ

松本 哲男

昨年10月15日に開催された農学部卒業50周年記念祝賀会と農学部創立70周年記念事業に出席させていただきました。記念祝賀会はコロナ禍で3年ぶりの対面開催でしたので、3年分の大学・大学院卒業生が集まり、同学年だけでなく懐かしい後輩にも会えて大変楽しく過ごさせていただきました。

2010年定年退職後も同室の現農学国際教育研究センター、伊藤香純准教授の JICA 草の根事業に加わり、2019年までカンボジアで安全な農産物栽培・加工品の開発・指導を行ってきました。プノンペンやシェムリアップのスーパー、空港で、名大と王立農業大学のロゴマーク付きのカンボジア伝統の焼酎「スラタケオ」と「タマリンドリカー」を見かけたら、品質保証付きです。お土産にお買い上げください。

在職時代からの NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会（歴代農学部長が理事長）企画運営委員を引き続き行っています。今、取り組んでいるのが、2018年農水省イノベーション創出強化研究推進事業に採択された「ウナギの雌化と食味に優れた大型雌ウナギの生産技術の確立」の研究支援です。前年に愛知県水産試験場の服部克也所長と稲葉博之研究員から「養殖ウナギの95%がオスになるが、ダイズイソフラボンを与えるとメス化する」との話があり、実用化のための相談がありました。直ちに、翌年度事業に応募するための申請書作成に協力し、採択され、現在、実用化段階まで進んでいます。既に一部で試験販売も行われ、市販のウナギに比べ、味、匂い、大きさの全てに優れた評価を得ています。皆さんの食卓に上る日も近い事でしょう。

私事では、昨年3月に愛知県森林公園の統括責任者を「年寄りが闊歩するより、若者が試行錯誤する組織」が良いと考え、30歳の男女二人を後任に選び、依願退職しました。公園にお寄りの際は、名物「担々麺」をお召し上がりください。

農学部の話題 —2022.1.1-2022.12.31—

- 余録 2022.5.14毎日新聞
- 農業用水 供給を再開 明治用水 4日に一度ずつ 老朽化、以前も指摘 コメ収穫「2割減収も」 2022.5.30朝日新聞
- 「ネコにマタタビ」 葉かむと蚊よけ効果高く 西川俊夫名古屋大学生命農学研究科教授 2022.6.15日本経済
- 胎生魚類の胎児 栄養受け取りは栄養リボンから ハイランドカープで仕組み解明 本道栄一生命農学研究科教授、飯田敦夫同助教 2022.6.17科学新聞
- 男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰 女性のチャレンジ支援賞：束村博子国立大学法人東海国立大学機構機構長補佐 2022.6.29中日新聞
- 明治用水 農業用を全面通水 三浦聡名古屋大学生命農学研究科助教 2022.8.2朝日新聞
- 8件に総額299万円助成 大垣共立銀行 アグリビジネス研究支援で 名古屋大学生命農学研究科が大学部門受賞 2022.8.29中部経済
- アグリビジネス助成 大垣共立銀行 8件に計300万円 2022.8.27岐阜新聞
- 脱炭素研究組織の役割議論 名大、岐大、中経連がシンポジウム 2022.9.7中日新聞
- 訃報 山本進一さん 2022.9.15中日新聞
- 自然科学系研究 助成13件を決定 増田雄司名古屋大学環境医学研究所准教授、山中長閑同素粒子宇宙起源研究所特任助教、一柳健司同生命農学研究科教授、加藤景子同理学研究科准教授、織田晃同工学研究科助教、榎本篤同医学系研究科教授 2022.10.17中日新聞
- クサフグ一斉産卵 解明 特定の遺伝子が大潮時に活性化 吉村崇名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所教授 2022.10.28中日新聞
- フグの一斉産卵促す遺伝子 大潮時にホルモン増 吉村崇名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所教授 2022.10.28中部経済
- 名大の野外観察園 植物知るイベント 20人参加 2022.11.17中日新聞
- エデュケアのとびら：ロールモデルを多様に 保育所や「女性枠」で励ます 2022.11.24中部経済
- 抗菌物質 識別し弱体化 灰色カビ病 新防除法に期待 竹本大吾生命農学研究科准教授 2022.12.23中部経済
- 灰色カビ病菌 野菜を「識別」 抗菌物質、個別に弱体化 竹本大吾生命農学研究科准教授 2022.12.26岐阜新聞

同窓会寄付者一覧

(2022.2.1～2023.1.31)

本年度、名古屋大学農学部同窓会および一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会に対し以下の方々より寄付金をいただきました。ありがとうございました。(敬称略)

青木 孝良	阿部百合花	池田 辰文	石川 靖文	石堂 圭太
伊藤 憲一	井上 忠彦	宇野 真人	大島(加藤)俊三	大橋 治陸
岡田 実憲	岡本 匠平	小川 三郎	奥村 純市	鹿島 俊裕
勝野 陽太	金井 邦彦	神谷 典明	神谷萌々子	亀井 達雄
河村 望愛	川本 芳	岸 雅奏	工藤 博雄	久野 勝治
窪田 重行	窪田 宣和	栗谷 潤	栗本 重夫	小林 一清
近藤 薫	近藤 壽男	榊原 育実	桜井 勇	佐藤 辰彦
鈴木 彰	鈴木 快征	鈴木 善彦	鈴木 春音	鈴木 遼平
鈴木(谷津)賢二	鈴木 奏仁	舘本 勲武	辰巳奈那子	田中 静幸
中島 茉里	中村 友輔	成瀬 和也	禿 英樹	長谷川靖彦
浜田 和久	林 和也	林 幸正	平田 國義	蛭薙 観順
二村 百華	舟橋 里帆	古川秀比古	古田 隆則	細井(井上)力
前田 富弘	牧田 雄介	松本(金田)和子	水野 修一	柳瀬 仁茂
山木 昭平	山崎 由泰	山本 義典	廉屋 巧	和佐田裕昭
渡辺 広大	渡部 初彦	他 匿名1名		

以上、73名の皆様

全学同窓会だより

名古屋大学が発展していくためには、大学と同窓会の緊密な連携が必要とされており、大学と同窓会は連携して社会に一層の情報公開を行い、社会から種々のニーズを汲み上げる必要があります。全学同窓会は、部局同窓会と連携しながら卒業生、学生、教職員の交流の場を提供し、名古屋大学全体の種々の活動に関する情報を発信しています。現在、農学部からも3名の全学同窓会幹事（福島和彦、木羽隆敏、柴田秀樹）が参画しています。全学同窓会は、2022年度、以下の活動を行いましたのでご報告いたします。

1) 同窓生名簿の整備

全学同窓会が確認した異動情報を大学に提供し、「卒業生等名簿管理システム」への入力を支援しました。住所等異動データを大学と協力して整備し、部局同窓会に提供しました。

2) 財政基盤整備

支援会員の募集、支援会費自動引落利用者の拡充を行いました。

3) 拠点形成

関東支部、岐阜支部の総会を支援しました。なお、遠州会（2023年6月10日開催予定）、関西支部の総会、講演会等は新型コロナウイルス感染症の影響で見送りとなりました。2023年1月28日、杉山総長、佐宗副総長が参加され、米国支部（16番目の海外支部）設立記念総会・レセプションが開催されました。全学同窓会からは、木村代表幹事・副総長、中野連携委員長が出席しました。米国には現在卒業生が約1300名おり、新たな海外拠点として期待されています。

4) 全学同窓会活動の運営基盤整備

部局同窓会との連携強化として、令和4年7月16日（土）に第5回名古屋大学同窓会サミットをハイブリッドで開催しました。令和5年2月20日（月）に、学士会と共催して、内山田竹志氏による講演会を実施しました（オンライン開催）。

5) 学生支援

スペースパルーンによる成層圏の放射線量およびオゾン測定（工学部機械・航空工学科）、International Students Startup Support Project（留学生の起業支援プロジェクト）、ライブラリ・メイカースペースによるグリーンベルトジオラマ製作及び課外活動支援（附属図書館）、名古屋大学模擬国連 NUMUN2023の開催（経済学部）を支援しました。また、寄附講座「キャリア形成論」を支援しました。

6) 大学支援

全学同窓会は大学の多彩な活動を支援するため、平成16年度から「名古屋大学全学同窓会支援事業」を行っております。今年度、生命農学研究科に対し、名古屋大学農学部創立70周年記念事業「名古屋大学から発信する新しい農学～現在・過去・未来～セコイアと共に～」を採択し支援しました。

7) 広報活動

Newsletter No. 38（2022年10月）、Newsletter No.39（2023年3月）を発行しました。No. 38の「活躍する会員たち」では、小西千晶さん（森とまちコンサルタント（株）代表取締役、1990年農学部卒）が紹介されました。また、名古屋大学メールマガジンを利用して、全学同窓会行事開催等の案内を発信しました。

一般社団法人名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会会費規則

第1条（目的）

この規則は、この法人の定款第8条の規定に基づき、会員が支払う会費等に関する必要事項を定める。

第2条（会費）

会員は、定款第6条に定める種別に従って次の会費を納めなければならない。会費には会誌の購読料が含まれるものとする。

- (1) 正会員 永久会員会費2万円
ただし平成11年度以前に卒業の正会員は5年ごとに5000円
(平成11年度以前卒業の正会員も永久会員会費2万円を支払うこと
で永久会員とする)
- (2) 学生会員 永久会員会費2万円
ただしいったん永久会員となった場合、
卒業後そのまま正会員（永久会員）に移行する。
- (3) 特別会員・・・会費徴収なし
- (4) 名誉会員・・・会費徴収なし
- (5) 特例会員・・・会費徴収なし

第3条（規則の変更）

この規則は、社員総会の議決によって変更することができる。

附則

- 1 この規則は、2022年8月1日より実施する。

事務局だより

事務局では名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会会員録データの改訂を行っています。転居および転勤の際は、同窓会事務局 (dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp) までご連絡ください。今後も会員の皆様からのご質問・ご要望にお応えして参りたいと考えております。ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

天然と合成を融合して
地球に優しい
健康美と機能美を創造する
研究開発型
化学品メーカー



株式会社 岐阜セラツク製造所

TEL:058-272-0831 FAX:058-272-0704

千年少年

Sennen Shonen

1000年先の地球と語り合う、少年のような視点と、純粋な心。

地球という大きな星が与えてくれた
シンプルでピュアな贈物、
それは記憶の中の少年の目と
心にくっきりと映っている。
一杯の水、大地の実り、雨の恵みや、木の木陰・・・
地球がくれるシンプルな贈物について、
私たちは真面目に考えたいと思う。
壮大なプロジェクトの中に、高度な技術の結晶の中に。
千年先の地球と共に。

株式会社三祐コンサルタンツ
Sanyu Consultants Inc.

全国同窓会名簿作製・同窓会アドバイザー

SALAT

Salat Corporation

株式会社 サラト <http://www.salat.co.jp/>本社 兵庫県姫路市北条宮の町172
Tel.079-284-1380 Fax.079-224-7746

印刷業から情報デザイン業へ

Info. + Design

長年培った表現技術を活かし、「印刷業」から
「情報デザイン業」へと進化していきます。

販促支援サービス

マニュアルサービス

P&Dサービス

教育出版支援サービス

株式会社 **クワイックス**<http://www.kwix.co.jp>

■本社 〒448-0025 愛知県刈谷市幸町2-2
TEL 0566-24-5511 FAX 0566-26-0200

代表取締役社長 岡本 泰

酒類、醤油、調味料、味噌、漬物、清涼飲料水の製造及び販売



盛田株式会社



【本社】〒460-0008

愛知県名古屋市中区栄一丁目7番34号 電話番号 052-229-1600

<http://moritakk.com/>

理化学器械・研究設備・光学機器・ガラス器具

主要取扱メーカー

アズワン	三洋電機
東京理化	タイテック
旭硝子	日本エイドナー
久保田商事	アドバンテック東洋
名古屋三立製作所	

MZH

株式会社みずほ理化

〒468-0066 名古屋市天白区元八事一丁目33番地
TEL 052-831-8800
FAX 052-834-4117
E-mail: mizuhorika@k2.dion.ne.jp

農学部・生命農学研究科同窓会事務局では、広告の募集をしております。本会報の発行部数は、現在約10,000部で、本学農学部関係者に配布されています。会社の広告、同窓会の通知などにご利用下さい。

詳しくは、同窓会事務局まで。

個人情報の取り扱いについて

名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会では個人情報の正確で適切な管理に万全を期するため、会員データの管理を株式会社サラトへ委託しております。株式会社サラトは愛知県内約80校全国約1,500校の同窓会で会員データ管理を手がけ個人情報保護法に最も精通したプライバシーマーク取得企業です。なお、サラトは得られた個人情報を責任を持って厳重に管理し、個人情報を第三者に開示または提供しないことについて、名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会とサラトとの間で契約を取り交わしております。

